

未来への投資、

今必要なもの

地方創生がもたらすものは、何だろう。人口減少へと進んでいる日本。これから、知恵を出やすい町、町を誇りに思ったり、愛せる町をつくっていかねばいけない。平成29年度は議会が質したもの、注目するべきものを取り上げていきます。

し合い単なる人口の取り合いになるような地方創生であってはならないと考える。住み決算は、町の将来の方向性を垣間見れる事業内容であったのではないだろうか。ここで

※ 入歳入 出歳出 ※ (〇〇→〇〇)は前年度との比較です

評価

- 入 町税の徴収率向上 (89.0%→91.8%)
- 入 地方創生拠点整備交付金 (2事業) (1億346万円 (29年度執行))
- 出 霜里学校拠点整備 (地域のPR拠点として活性化に期待)
- 出 防災地域支援課の設置 (自主防災組織率の向上 64.3%→73.4% (世帯数))
- 出 小川野菜プロモーションの展開 (OGAWA'N (オガワン) 認証41事業者)
- 出 セタまつりの成功 (17万5000人の来場)
- 出 デマンドタクシー導入準備 (登録者数3695人、平成30年3月31日)
- 出 地域福祉委員を増員 (30地区で100人となった。区長、民生・児童委員を補助するなど活躍中)
- 出 町立小中学校のトイレ洋式に改修 (子ども議会の提案が叶った。町内全校に設置)
- 出 教育相談室・広域適応教室 (職員を増やして、きめ細やかな対応)
- 出 健康マイレージの導入 (歩いて健康。県の事業に参画するとともに、独自のポイントを付与し、記念品を用意した)



放課後子供教室開始
「大河キッズ」は、希望者が多く教室増を検討。



子ども子育て施設整備
4月2日にオープン。ワンストップで妊娠前から子育て期までをサポート。特に相談体制が強化される。



酒蔵めぐりの大成功 3800人の来場

4月14日に開催された「ちょこたび埼玉酒蔵めぐりin小川町」。2018ミス日本酒埼玉代表武田紗和子さんを迎え、酒蔵めぐりのオリジナルマーク入りの記念電車が運行されました。

課題

- 入 特別土地保有税の不納欠損処理 (1億4439万円 (40.6%増))
- 入 臨時財政対策債の増 (4億6900万円 (2.5%増))
- 出 行政バスの有効活用 (利用規定の再考)
- 出 町道228号線が未開通
- 出 環状1号線が未完成
- 出 マイナンバーカードの発行状況 (町民の12%にとどまっている。促進には、機能の充実や独自の特典などが必要か)
- 出 リリック大ホールの老朽化 (管理棟のみの改修計画となり、保留となった大ホールの今後の心配される)

公共施設の老朽化

リリック大ホール・小中学校・学校給食センター・町立保育園等の方向性を示す時期にきているのでは。



町立保育園では保育士確保も厳しく、平成29年度から民間保育移行庁内検討委員会を設置しました。

監査委員の意見

代表監査 田端文夫



平成29年度一般会計の歳入歳出差引額は、2億4906万円となりました。経常収支比率(※財政構造の硬直度を示す指標のひとつ)は、90.6%で、平成28年度県内町村平均88.6%を上回っており、財政の硬直化が進んでいると言えます。これは、恒常的な財源不足による影響で、今後の改善に向けて

新たな企業誘致の推進、町税や保険料などの徴収率の向上、不納欠損額・収入未済額の削減に努め、一層の歳入確保に取り組むことが求められます。また、歳出面では、ハード面で施設の老朽化への対応が急務であるため、将来性や費用対効果を見極めた修繕計画を緻密に立てる必要があります。一方、ソフト面では、社会保障費の抑制につながる施策を行なうとともに行政サービスに対するコストを明確化することで、人口減による歳入減を公共サービスの質や量に転嫁しない工夫が求められます。このように、厳しい財政運営が続く認識を持ち、この状況下でも町民福祉の向上に向けた効率的な行政システムの構築を期待します。(決算審査意見書より)